水辺の鳥図鑑

ミサゴ（みさご）

タカ目タカ科
（学名：Pandion haliaetus）

■ 撮影者：犬鳴川流域文化研究会：中村氏
■ 撮影地：犬鳴川流域

全長約60センチメートル。体の上面は黒褐色、頭部と体の下面は白く、過眼線と胸は褐色である。海岸、湖沼、広い川などの近くにすみ、飛びながら水中の魚を探し、見つけると急降下して水中に突入し足でつかむ。高木や島の岩の上に大きな巣を作り、2、3個の卵を産む。チッチッと細い声で鳴く。

協会からのお知らせ

平成22年度 福岡県河川協会通常総会

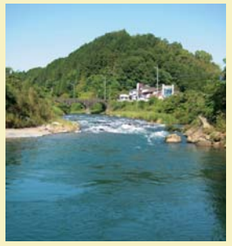
◎日時:7月27日(火)
◎場所:ホテルレガロ福岡
主催:福岡県河川協会

第15回 水シンポジウム in ふくおか

◎日時:8月3日(火)～4日(水)
◎場所:福岡大学8号館等
主催:第15回水シンポジウム2010inふくおか実行委員会

表紙の説明

清流の星野川



八女市星野村を源流とし、八女市を流れ矢部川に合流する清流星野川。右岸には田んぼが広がり両岸の背後に緑ゆたかな山々をいただき、その間を水量豊かに白波を立てながら流れています。上流方向に見事なアーチ式石橋があり、そこには大正11年の文字がみられます。山と橋と清流が見事に調和した星野川です。

水防功労者表彰

おめでとうございます!

平成22年4月28日に
開催された全国水防大会の席上、
本県の3名の方が表彰されました。

みやま市消防団団長	本多	賢次氏
筑後市消防団副団長	角	圭吾氏
宇美町消防団団長	三好	諭治氏

編集後記

この度新たに、佐藤技術主査、江﨑主任技師、加藤主事の3名を迎え、6名の編集陣でより良い「かわ」づくりに取り組んでまいります。（猿渡）

STAFF
発行・編集／福岡県河川協会
〈福岡県県土整備部河川課内〉
〒812-8577
福岡市博多区東公園7-7
TEL：092-633-2826（直通）
FAX：092-643-3669
企画／セントラル印刷株式会社

福岡県河川協会ホームページ http://www.fukuoka-pref-kasen.jp/kasenkyokai/

福岡の河川情報誌 かわ Vol.206 2010.7.1

かわ

Vol.206
2010.7.1

Contents

わがまちのかわ …… 1～2
◎[第7回 北九州市 板櫃川]
第1回災害復旧実務講習会の報告 …… 3
うきは市に藤波ダムが完成 …… 4～5
第15回「水シンポジウム2010inふくおか」のご案内…… 6
企業協働河川愛護事業ごあんない …… 7
ふくおかの身近な川と魚を知ろう!! …… 8～9
◎遠賀川の奇跡
水辺の鳥図鑑/表紙の説明 …… 裏表紙
協会からのおしらせ

わがまちのかわ

第7回 北九州市

板櫃川（いたびつがわ）

板櫃川は北九州市八幡東区皿倉山系に端を発し、河内貯水池直下を起点として八幡東区市街地を通り、支流の槻田川と合流し、小倉北到津を通って響灘へと流れる全長9.7kmの河川です。山頂から河口までの流路延長は14.4km、流域面積は25.5km²。地元では、槻田川との合流点より上流が大蔵川、下流が板櫃川と呼ばれて親しまれています。

【河内貯水池】

市内で唯一白鳥が泳ぐ貯水池。

板櫃川起点のそばにそびえる堰堤。その上部中央に顔をのぞかせるヨーロッパ古城風の取水塔。内側には、皿倉山系に降り注いだ雨水が満たされています。河内貯水池は、第1次世界大戦勃発による鉄鋼需要の増大に伴い、官営八幡製鉄所の用水を安定的に確保することを目的として建設されました。平成19年には、経済産業省の近代化産業遺産に認定されています。春は桜の名所で、夏に新緑、秋には紅葉と四季折々訪れる人の目を楽しませてくれます。

昭和2年当時東洋一の大きさを誇る河内貯水池でした。

【板櫃川水辺の楽校】

水辺での環境学習・自然体験活動の場。

平成19年、中流の高見地区に開校した板櫃川水辺の楽校は、自然の状態を極力保全した上で、瀬や淵、せせらぎ等の変化にとんだ自然環境の創出や、アクセスしやすい傾斜のゆるやかな護岸整備を行って、子供たちが自然と出会える安全な水辺を整備しています。小学生を対象とした環境学習プログラムの実施や、多くの地域住民参加の清掃活動など、市民参加の川づくりが行われています。

【旧九州鉄道茶屋町橋梁】

「下駄っ歯」と呼ばれる凹凸が美しい。

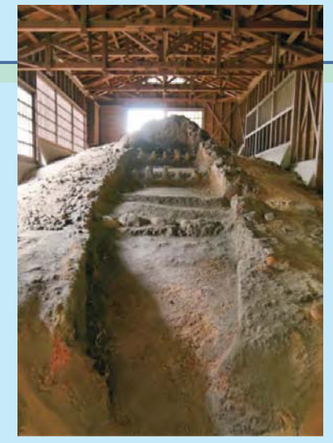
板櫃川と槻田川の合流地点辺りに架かるアーチ状の赤レンガ橋は、明治24年（1891年）4月に開通した九州鉄道大蔵線の橋梁で、明治35年（1902年）に現在の鹿児島本線が開通するまで、小倉-黒崎間の鉄道はここを走っていました。市内には、鉄道敷設当時の施設で残されているものは数少なく、この橋梁は北九州市の交通史上貴重な遺構となっています。

【菜園場窯跡】

小倉城主細川忠興が趣味の為に造った登り窯。

小倉北区菜園場にある窯跡は、江戸時代初めの小倉藩主であった細川忠興が趣味で焼き物を作らせるための窯だったと考えられています。焚口と四つの焼成室からなる「登り窯」であることが確認され、いろいろな種類の茶碗や茶入れ、土瓶などが出土しました。

菜園場の窯でいつ頃どのような焼き物が焼かれていたのか、まだはっきりとわかっていませんが、福岡県の伝統的な焼き物である「上野焼」を始め、日本の焼き物の歴史を探る貴重な資料であると言えます。



【板櫃川リバーアドベンチャー】

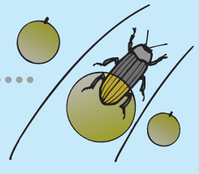
水遊に子供たちが大興奮。

板櫃川を舞台とした1泊2日の自然体験活動で、毎年30～40名の小学生が参加しています。リバートレッキング（陸上をトレッキングするように川の中を歩くこと）や河内貯水池でのカヌー体験・飯ごうでの夕食作りなどの体験プログラムと、川の生き物や環境についての学習要素を盛り込んだプログラムがあり、全てのプログラムにそれぞれの専門家が配置されています。

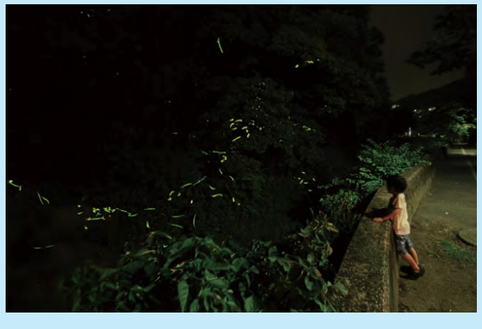
参加者にはリピーターも多く、一連の体験は子供たちにとって忘れられない人生の宝物となることでしょう。

【槻田川のホタル】

市内有数のホタルの名所



板櫃川の支流、槻田川は、市内有数のホタルの名所であり、地域・学校が一体となって、ホタルの環境づくりを行っています。毎年6月には「たかつきほたる祭」がおこなわれ、多くの人でにぎわっています。



平成 22 年度

第1回災害復旧実務講習会の報告

平成22年4月26日（月）　10：30～16：50

於（財）福岡県建設技術情報センター

平成22年度第1回災害復旧実務講習会（主催：福岡県河川協会）が開催され、県内各市町村・県土整備事務所の担当者約150名の方に参加していただきました。当講習会は年2回、災害復旧担当者を対象に開催していますが、前年度の災害復旧事業の総括や災害復旧事業の制度や流れ、設計・積算の考え方や留意点、災害査定指摘事項など事務及び技術の両面から講習できるプログラムとなっています。

午前中の災害復旧事業の総括では、福岡県における平成21年度災害査定件数が、近10ヶ年では3番目に多い642件にあったにも関わらず、迅速な対応（災害発生後2ヶ月以内の災害査定）が実施されたこと、被災前状況を説明するため、維持管理に係る資料整理に創意工夫が必要であることなどの説明がありました。そのほか、災害復旧管理システムを使った目論見書作成方法、午後からは、最近の国及び県から出された災害復旧に関する技術的な通達事項の解説など実践に即した内容の説明がありました。また、県土木技術職OBによりボランティアで組織する「福岡県防災エキスパート会」からは、河川現況調査や大規模災害時、市町村への災害申請アドバイス等の活動紹介がありました。

災害復旧事業においては多くのルールや留意事項がありますが、この講習会を参考にしていただき、迅速かつ適正な災害復旧実務が行われる一助となればと考えています。

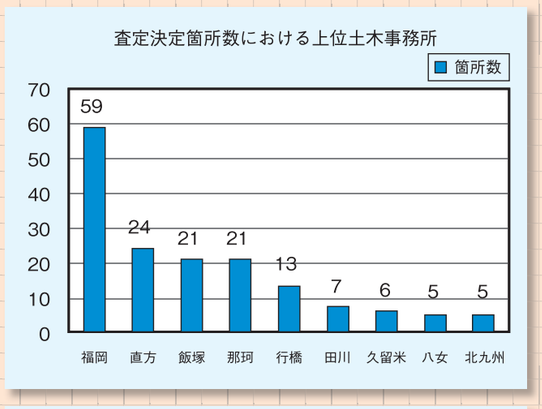
次回の講習会においても、たくさんの方のご参加をお待ちしております。

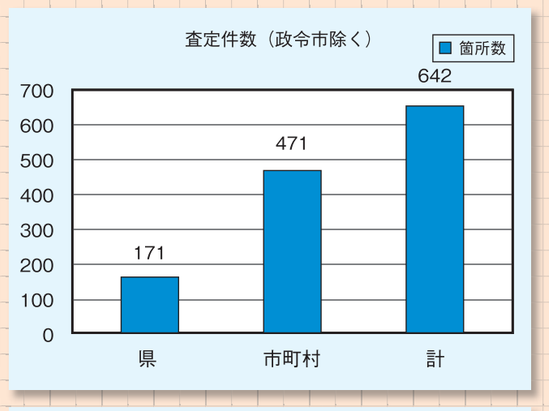
H21 災害状況

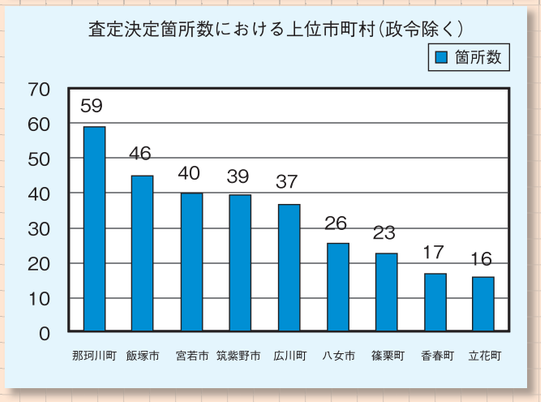
岩屋川（福智町）

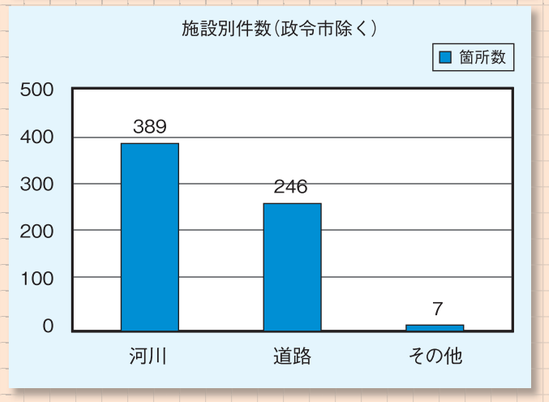
八木山川（宮若市）

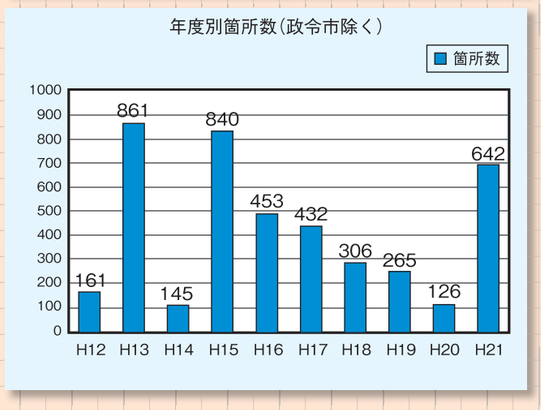
H21災害査定の結果









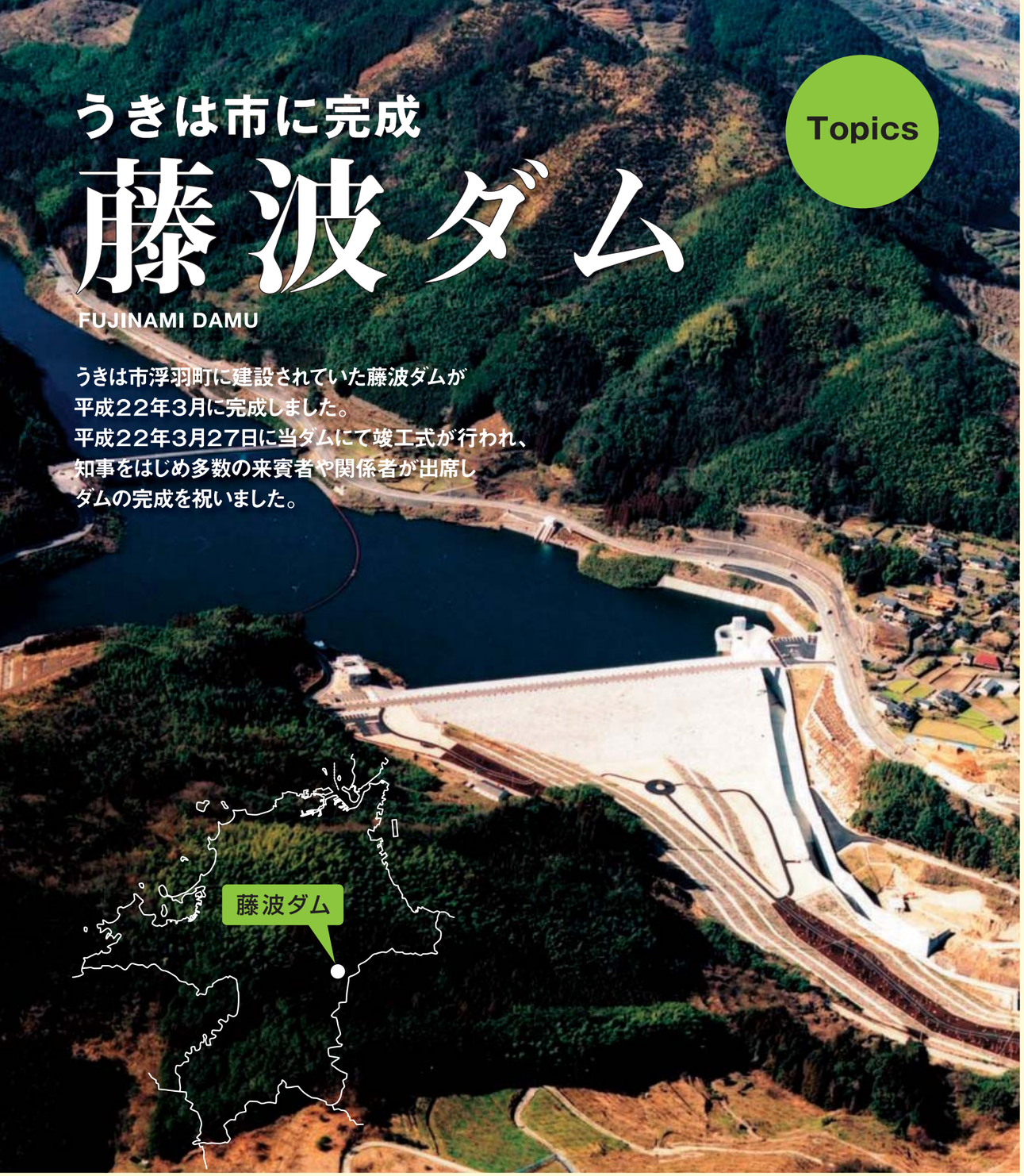


Topics

うきは市に完成
藤波ダム

FUJINAMI DAMU

うきは市浮羽町に建設されていた藤波ダムが
平成22年3月に完成しました。
平成22年3月27日に当ダムにて竣工式が行われ、
知事をはじめ多数の来賓者や関係者が出席し
ダムの完成を祝いました。



藤波ダム及び貯水池の諸元

ダム諸元	
提形式	中央コア型ロックフィルダム
提　高	52.0m
提頂長	295.0m
提体積	1,056 千m^3

貯水池諸元			
集水面積	21.7k m^2	不特定容量	450 千m^3
湛水面積	0.21k m^2	推砂容量	500 千m^3
総貯水容量	2,950 千m^3	洪水時最高水位	EL135.5m
有効貯水容量	2,450 千m^3	平常時最高貯水位	EL123.0m

うきは市に藤波ダムが完成 ｜ 河川開発課 篠原誠治

藤波ダムは、1級河川筑後川水系巨瀬川のうきは市浮羽町に治水ダムとして建設したもので、ダム高52m、堤頂長295mの中央コア型ロックフィルダムで、貯水容量2，950，000m3、有効貯水容量は2，450，000m3で洪水調節容量と既得用水の確保および河川環境の保全を目的としたダムです。

巨瀬川は、過去にもしばしば災害に見舞われていますが、昭和28年には全域において破堤による浸水被害をうけました。また、昭和44年6月の梅雨前線による出水により約1，800戸が浸水・倒壊の被害をうけました。この水害を機に昭和44年予備調査、昭和45年に実施計画調査を行い、昭和51年に建設が採択されました。その後、地元や周辺の住民の方々に建設の同意を得られ、平成13年度にダム本体工事に着工することができました。

私自身は平成17年度より建設事務所に配属になりましたが、当時は洪水吐き工を大々的に施工している時で「こんな高いところに昇るなんて危ないなあ」と思いましたが、日々上り下りをしているうちに感覚が麻痺してくる自分がいることに気づき「人は環境に対応していくものだ」と感じました。

その後、堤体の盛立てが始まりましたが、1週間も現場に行っていないと風景が変わっているというくらい堤体があがりびっくりしたこともありました。そして、盛立ても順調に進み平成21年2月には試験湛水を開始することとなりました。

ところが、試験湛水が始まると小雨の影響でなかなか水が貯まらず、約3ヶ月かけて貯めてきたのに出水期をむかえ常時満水位まで水位を下げなくてはならず少しおしい気持ちになりました。10月に再度湛水を開始しましたがこれも予定通りに貯まらず、年度内は難しいだろうなと半分あきらめムードが漂っていましたが、3月初旬にサーチャージ水位に到達することができ、竣工式も3月下旬に行うことができ「終わりよければ全てよし」ってかんじで平成21年度内に完成することができました。実際はその後の手続き等いろいろと苦労があるんですけど…

私はこの事業の最後の数年に携わり竣工式というおいしい場面に参加することができましたが、約40年という長い期間のなかで各担当がそれぞれ苦労し努力してきたおかげでこの藤波ダムが完成したと思っています。

最後に、調査開始から完成まで長い年月のなかで、ご苦労をおかけした地元住民やこの事業に携わってこられた多くの関係者の方々に深く感謝して終わりにしたいと思います。

ありがとうございました。

過去から未来へ
水・人のつながり
福岡からの発信

第15回

水シンポジウム

in ふくおか

2010

●シンポジウム
平成22年8月3日(火)
午前9時～午後5時20分
福岡大学8号館
福岡市城南区七隈 8-19-1

●現地見学会(有料)
平成22年8月4日(水)
午前9時～午後4時

入場無料
※申込が必要です。

詳しくはホームページ
www.mizusympo15.jp
お問い合わせは
福岡県県土整備部河川課(事務局) TEL.092-643-3668

企業協働河川愛護事業ごあんない

河川愛護活動に参加しませんか?

企業協働河川愛護事業とは、企業等※が河川の除草・清掃または河川愛護団体の支援(伐木、抜根、整地など)を行う場合にその企業等を福岡県が支援するものです。

「ふくおかの、私たちの川を もっときれいにするために…」

今までの河川愛護活動は、地域住民や一般のボランティア団体(=河川愛護団体)が中心となって行われてきましたが、ボランティア団体だけでの活動には限界があり、またできることも限られてくるため、企業等にも参加を呼びかけています。この企業等もボランティア団体や福岡県と一体となって河川の環境保全や美化を行い、今まで以上に「きれいな川」になるよう取り組んでいきます。

※企業等には一般の企業に加え、農協や漁協などの組合、その他団体を含みます。

よみガエルくん

**アダプト企業は、河川愛護活動(除草・清掃)を実際に行うんだ。
アシスト企業は、河川愛護活動を行うボランティアや企業等の皆さんを支援するんだよ。**

アダプト企業について

アダプト企業とは?

除草・清掃等の河川愛護活動を行う企業等のことです。事業所近くの川をきれいにしたい、ふくおかの川を美しくしたいという企業等で、登録基準については下記の①～③に該当する企業等のことです。

アダプト企業の活動内容は?

県管理河川において河川愛護活動(除草・清掃など)を行います。

どうやって登録するの?

①～③に該当する企業等は、管轄の県土整備事務所(支所)にてお申込ください。

①従業員がおおむね50名以上

従業員がおおむね50名以上の事業所です。

②左右岸合計がおおむね500m以上

左右岸合わせておおむね500メートル以上の区間の河川愛護活動を行います。

③活動は年2回以上

年2回程度以上の活動を行います。

アシスト企業について

アシスト企業とは?

河川愛護団体の活動を支援する企業等のことです。

アシスト企業の活動内容は?

河川愛護活動を行うボランティア団体やアダプト企業の活動を重機や特殊車輌による作業によって支援します。

どうやって登録するの?

アダプト企業同様、管轄の県土整備事務所(支所)にてお申込ください。

①活動支援例 ～整地～

ボランティア団体の皆様が除草や清掃が行い易いように凹凸になった地面を小型重機等を使用して整地します。

②活動支援例 ～抜根等～

バックホウ等を使用して土中に埋まっている切株やタイヤ等を取り除きます。

②活動支援例 ～伐木～

チェーンソー等を使用して、作業に支障のある立木を伐採します。

※詳しくは福岡県 県土整備部河川課ホームページをご覧下さい。http://www.kasen.pref.fukuoka.lg.jp/

ふくおかの身近な

川とさかなを知ろう!!

No.11

「遠賀川の奇跡」

かつて炭鉱の町として栄えた筑豊地域を流れる遠賀川。石炭を洗うため、川は黒く濁り、魚が棲めるような状態ではなかったという話をしばしば耳にします。アラフォーの私には、当然ながらかつての遠賀川を見たことがありませんし、当時の魚の生息状況も分かりません。遠賀川の魚で最も有名なのは恐らく「鮭」。上流に鮭神社があること、この川がサケの国内分布の南限であること、そして、市民が中心となった鮭稚魚の放流事業が毎年行われていることなどから、しばしば新聞報道されています。ただ、かつての遠賀川を全く知らない若手の魚の専門家として、遠賀川に現在、生息する魚たちに注目したとき、いろいろと興味深いことがありますので、少々、話題を提供したいと思います。

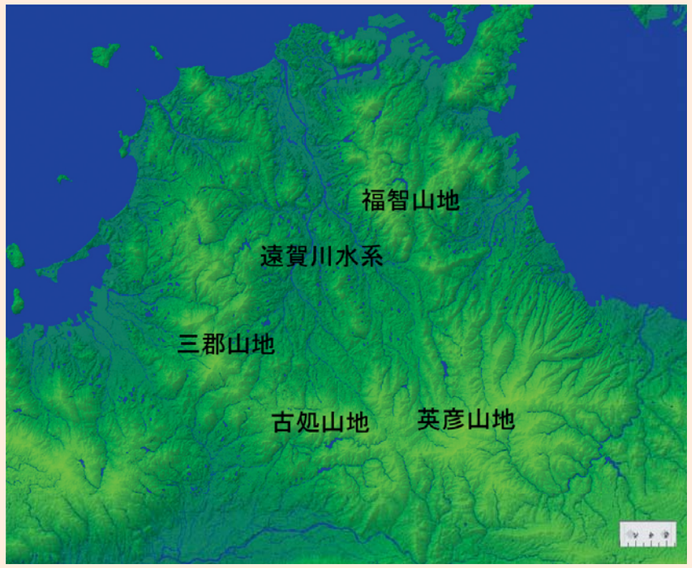
遠賀川は九州で2番目に長い川。福岡県嘉麻市馬見山に源を発し、筑豊地方の平野部を流れて福岡県北部の響灘に注ぐ1級河川です。川は長ければ長いほど淡水魚の種数は増加する傾向にあることが学術的に知られており、九州で2番目に長い遠賀川は当然、淡水魚の生息種数が九州で上位の方にランクされます。最近、ブラックバスやブルーギルのような外国からやってきた国外外来魚、ハスやワタカのような日本の他の地域からやってきた国内外来魚の姿が目立ちますが、それを差し引いた在来の魚に限ってもその種数は上位級です。

流域の様子

遠賀川流域といえばかつての筑豊炭田に話題がいきがちですが、流域には比較的大きな水田地帯が残っています。「残る」という言葉をあえて使ったのは、標高が低い平野部は利便性が高いため、都市化が進みやすい傾向にあるからです。福岡市を流れる那珂川をご想像ください。下流域に水田地帯はほとんどありません。遠賀川は飯塚市、直方市や田川市などの比較的大きな都市を抱える割には、平地の水田地帯が多く、実はここに大きな魅力があります。

スジシマドジョウ中型種

メダカやタナゴ類などの幾つかの淡水魚類は川よりも水田・水路を好みます。日本全国の平地の水田地帯は住宅や工業用地に変わり、また、水田自体も乾田化が進んで冬には水が枯れてしまうコンクリート水路ばかりになってしまいました。水田・水路を好む淡水魚たちは軒並み環境省レッドデータブックで絶滅危惧種にランクされています。遠賀川ではそういった全国で絶滅が危惧されるような希少な水田・水路の魚たちが比較的多く見られます。遠賀川の現在の魚たちの魅力のひとつです。



周囲の山塊に注目

続いて、周囲の山塊に注目します。遠賀川流域は、西側には三郡山地、南側には古処山地と英彦山地、東側には福智山地があり、いずれも1000m前後の山塊に囲まれています。そして、それらの山塊に囲まれた地域の中に遠賀川水系以外は流れていません。低平地の淡水魚類は川の氾濫などで隣接する川と接したとき分布を広げると考えられており、高い山々で囲まれた遠賀川水系は近隣の川と接する機会が極めて少なかったのでは、、、。そして、長い年月、近隣の川と遺伝子が交流しなかった遠賀川の淡水魚類の中で、進化速度が速いものは、独自の進化を遂げたかも、、、。実際に、遠賀川水系に生息するスジシマドジョウ中型種。他の地域に生息するものとは遺伝的にかなり分化していることが確認されています。もしかしたら、近いうちに、遠賀川水系だけにしか生息しないオンガスジシマドジョウなんて種名が命名されるかも、、、。そんな特殊性も遠賀川の現在の魚たちの大きな魅力です。

かつては黒い水が流れる川

さて、遠賀川はかつて石炭産業で栄え、洗炭で黒い水が流れ、魚が棲める状態ではなかったとのこと。にもかかわらず、遠賀川の現在の魚に注目したとき、なぜこれほど多くの魅力を抱えているのか?遠賀川の「黒い水」は多くの淡水魚に多大なダメージを与えたはずです。種数は九州の上位、水田・水路の希少な淡水魚が生息、遠賀川onlyの特殊な淡水魚が生息といった魅力が、「黒い水」のダメージを受けなかったのか、もしかしたら疑問に感じられるかもしれません。その答えは水系全体に着目したとき、ぼんやりと見えてきます。遠賀川水系は、西には八木山川、犬鳴川、内住川など、南には穂波川、遠賀川、中元寺川、彦山川、東には金辺川、福地川、黒川などの支流を抱えます。その流域は7市14町1村に及ぶそうです。恐らく、「黒い水」がこれらのすべての支流を流れていたわけではないでしょう。黒い水を免れた川が幾つかあったのでしょう。そして、出水のたびにその川から、他の川に魚たちが供給されていたことでしょう。

石炭産業が役割を終え、遠賀川の水は徐々にきれいになり、供給された魚たちが定着し、そこで再生産を繰り返し、今に至るのでしょう。遠賀川のかつてを想像したとき、魚たちが種を残そうとするその強さを感じることができる川と言えるでしょう。そして、これまで多くの人々が遠賀川の水質浄化に尽力されてきたと聞きます。人の努力で失いかけた生態系を徐々に取り戻している過程を示す川として、きっとみなさんは遠賀川に更なる魅力を感じてあるのではないでしょうか。

鬼倉 徳雄（おにくら　のりお）

●九州大学大学院農学研究院・助教
●日本魚類会自然保護委員会・希少魚類部会委員
●日本水環境学会九州支部・評議委員
主な著書
■有明海の生きものたち干潟・河口域の生物多様性（佐藤正典編）
■干潟の海に生きる魚たち有明海の豊かさと危機
（日本魚類学会自然保護委員会編）